

TRIAL &

JVC 日本国際ボランティアセンター会報誌 トライアル・アンド・エラー (試行錯誤)

ERROR

[特集] TPP 大筋合意から見えること

TPP は日本と海外の市民を
どこに導くのか

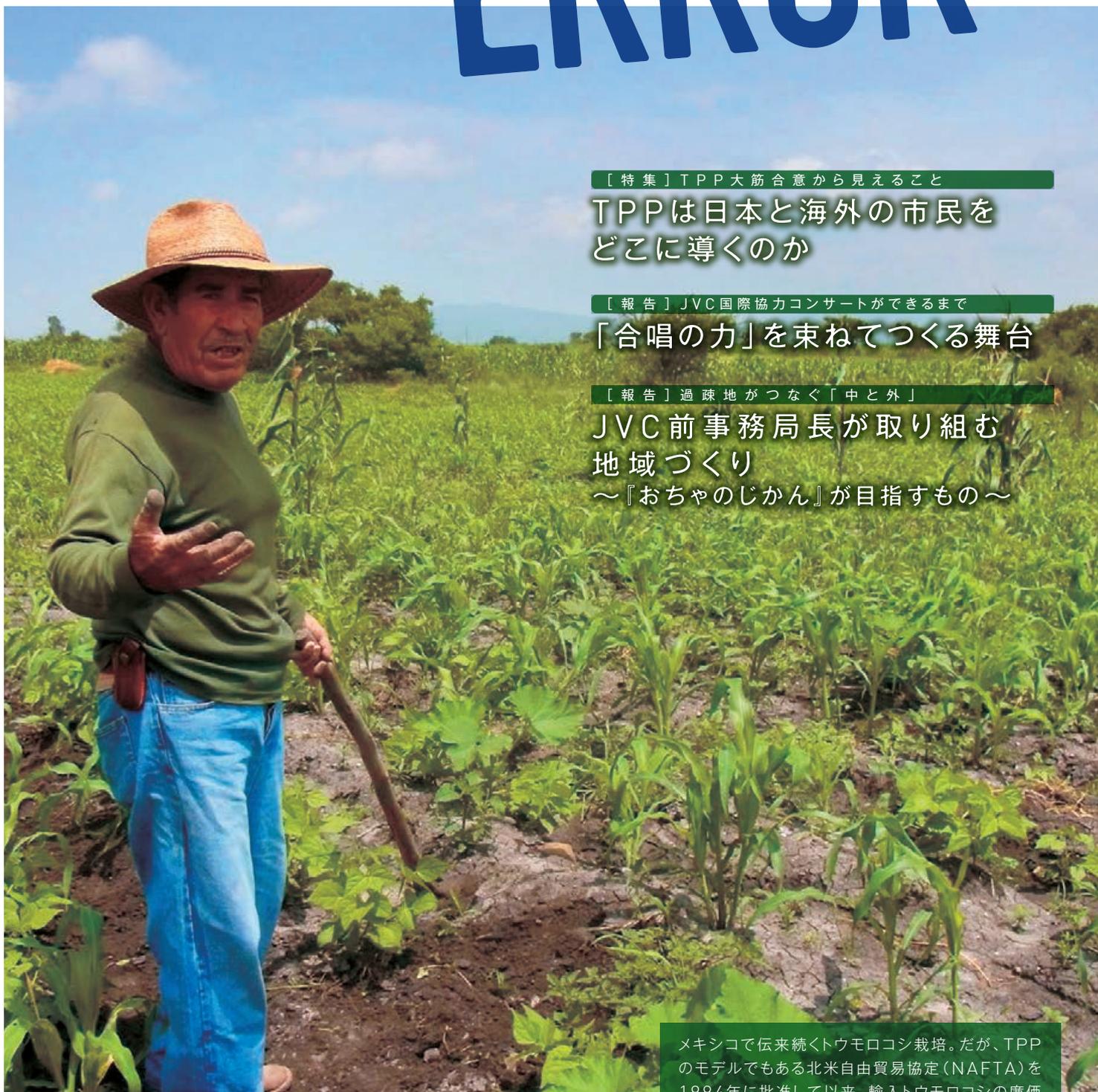
[報告] JVC 国際協力コンサートができるまで

「合唱の力」を束ねてつくる舞台

[報告] 過疎地がつなぐ「中と外」

JVC 前事務局長が取り組む
地域づくり

～『おちやのじかん』が目指すもの～



メキシコで伝来続くトウモロコシ栽培。だが、TPP のモデルでもある北米自由貿易協定 (NAFTA) を 1994 年に批准して以来、輸入トウモロコシの廉価に押され赤字農家が増えた。先祖伝来の農地を捨てられず、自家消費のための栽培が続いている。



2012年5月22日市民の要請で初めて開催された市民と政府の東京意見交換会。政府からは内閣官房の政務官や審議官が参加。政府はTPP交渉前なので情報が不十分との説明が多かった。向かって左から2人目が筆者。

した。しかし公開資料や政府の説明では市民生活に影響を与える核
心部分が分からないままです。

JVCと「全国実行委員会」 の取り組み

その秘密主義について、日本の交渉参加以前から、マレーシアのNGO「サード・ワールド・ネットワーク」などが市民の立場で情報公開を求めています。

日本政府がTPP参加表明をした翌年の12年にJVCやAMネットが中心となり、情報公開と市民との協議を求める全国組織「市民と政府TPP意見交換会・全国実行委員会」を発足。政府と折衝を重ね、同年、東京都、大阪市、愛知県一宮市で市民と政府高官とのTPP意見交換会を実現しました。

13年の政府に情報開示を求める要請で380団体の賛同署名を政府TPP対策本部（以下、対策本部）に提出し、14年2月には

情報開示を求める国会議員との共同記者会見を開催しました。

今回の大筋合意を受け、15年6月から行った「TPPの透明性」を求める対政府要請への署名活動で集まった115団体（構成員数で300万人超）の署名を対策本部に提出し、その際、賛同した農民団体、生協、医療団体、違憲訴訟の会、学者の会などと共に政府参事官に面会しました。

ただ残念なのは、13年の要請書でも今回の要請書でも、NGOの反応が鈍いことです。賛同団体の数は限られてしまいました。

いまだに不透明な 交渉内容

対策本部との面会で明らかになった重要点は2つあります。一つは、英語で公開された協定本文の日本語訳は、協定締結までつくりださないこと。もう一つは、2国間交渉の交換文書は2国が合意しなければ非公開ということです。

2015年11月13日、同日行った対政府要請の報告集会。
TPPに反対する主だった団体が多数参加した。



協定本文は英語で1000ページ、付属文書を加えると3000ページ超と言われています。対して、10月5日の日本政府公表の「TPP概要」は97ページ。一つの条項は英語本文や付属文書を当たらねば正確に把握できません。本文に書かれていないことが2国間の交換文書に書かれていることも多く、市民が知り得ない内容が非公開の「秘密文書」に差し込まれた可能性があります。

一例をあげましょう。消費者団体などからあがった食の安全が脅

かされることへの懸念に対し、政府は「世界貿易機関（WTO）の衛生植物検疫措置（SPS）を踏まえた規定なので心配無用」と説明します。しかし英文協定本文では、輸入港検査での決定に訴えを申し立てる権利を輸出業者に供与することを義務づけています。

アメリカの市民組織パブリック・シテイズンは、「この規定は、輸入食品に対する厳格な監視を食品安全検査官に自粛させる」として批判しています。

政府は、公的保険・薬価制度への影響を懸念する医療関係者や患者団体に「国民皆保険、公的薬価制度の仕組みを改悪しない」と明言しますが、TPP付属文書によれば、医薬品企業は、TPP交渉諸国の保険制度に不満があれば、その国を訴えることができます。

また薬価制度などの「意思決定プロセスの適切な複数のポイントで」、償還についてコメントを行う機会を外国の製薬企業に与える

よう命じています。TPPに反対する学者の会は声明で「この規定は国民皆保険制度を内側から食い破る」と批判しています。

ISDS条項から見る NGOにとってのTPP

ISDS条項の核心は、秘密主義と外国企業の利益優遇にあります。たとえば、TPPのISDS条項。投資の自由が阻害されたと考える企業は、その国や自治体を世界銀行傘下の「国際投資紛争解決センター」に訴え、莫大な損害賠償を勝ち取ることができます。



2015年11月13日、「TPPの透明性」を求める対政府要請をTPP政府対策本部に手交した。

アメリカ企業はこの仲裁で負けたことが一度もありません。

政府は「公共政策はISDS訴訟の対象外」と説明しますが、英語版文書では天然資源の独占的な採取権の付与を含めあらゆる分野の行政措置が訴訟の対象になることが分かります。

日本人の不利益を言っているのではありません。ベトナムやマレーシア、メキシコ、チリなど交渉参加国で市民の公共財が、外国企業の草刈り場にされる構造なのです。まさに市民不在のグローバル企業による争奪戦です。

先進国であれ途上国であれ、TPPは市民の利益を犠牲にし、強い企業が儲ける権利を保障する協定です。なのに、NGOの多くがこの問題に関心を向けないことが不思議でなりません。だからこそ、国と国、企業と企業の勝ち負けではなく、国を越えて市民の権利をどう守るかが問われていることをもっと伝えなければなりません。



JVC 理事 天明 伸浩

TPPで狙われているのは 農業だけではない

TPPが大筋合意した。TPPという話題の中心になるのが農業だ。しかし、他の分野にも大きな影響が出てくるのが予想される。すでに影響の出ている分野もある。TPPの交渉に日本が参加するために、日米での事前協議も行われていた。その中で多くの注文が付けられ、国民がTPPの影響だと気づかされないように、すでに国内制度が巧妙に変更されている

狙われる軽自動車

公共交通手段が発達していない地域では、就職したての若者からお年寄りまでほぼ一人一台、足として活躍するのが軽自動車だ。税率は安く抑えられていた（自家用で7200円）。ところが、米国の自動車の規格に「軽」はなく、その税率の安さが「非関税障壁」と難癖付けられていた。そしてTPP後の制度変更ではなく、今

春から軽自動車は税率1・5倍の1万800円にアップした。2014年10月。郵便局で、米国の医療保険会社アフラック社のガン保険販売が始まった。これもTPPを睨んだもの。直前まで国内保険会社の保険を販売予定だったのが、鶴の一声での変更である。TPPが話題になった頃から注視していた人には、国内制度の変更が国内事情だけではないことは分かる。だが多くの人には、何の力が働いたかには考えが及ばない

のが実情ではないだろうか。

TPPの怖いのは、TPP自体での変更ではなく、軽自動車税のように、米国などの思いを付度して、相手の要求に合わせるように巧みに制度変更されることだ。

形骸化する 国民皆保険

TPPの大筋合意後から、政府がさかんに説明する「国民健康保険や食品の安全基準などは影響ない」ということも考えられない。

TPPでは医薬品の開発データの保護期間が大きな問題になった。短くしたい日本と、できるだけ長い期間にしたい米国とで妥協点が見出せなかったが、最終的には玉虫色での大筋合意だ。

日本では今後、米国企業の意向などで薬価は上昇するだろう。日本では、ガンなど特定薬を除けば、病院での薬価は安く抑えられているので、まだ病院に行きやすい医療環境が保たれている。

ISDs条項

外国企業は自社製品が他国で売れない場合、「その国の制度が自由競争を阻害した」と、世界銀行傘下の「国際投資紛争解決センター」に提訴できる。センターでは3人の判事が裁定にあたる。一人はその企業から、一人はその国から、そしてもう一人がその双方が共通で認めた第三者だ。だが、そういう第三者は存在しないので、世銀総裁がその人物を選ぶ。すると、どうしても世界銀行への出資第一位であるアメリカから選ぶことになる。果たして、米企業はISDs裁判では不敗だ。そのたびに、その国や自治体から巨額の賠償金を得る。TPPの前身でもある二国間協定をアメリカと結んだ韓国では、ISDs対策として、あらかじめ国内法を63も変えた。市民にすれば法の改悪だ。日本でも、たとえば、安価を維持する薬価も、米企業が「自由競争の阻害だ」とISDs裁判を起せば、日本から数百億円の賠償金を得るかもしれない。それを避けるため、日本はあらかじめ、その企業の薬剤を高額で普及する制度をつくるかもしれない…。薬剤だけではなく、生活のあらゆる分野でそれが起こりうる可能性は覚えておきたい。

だがその安さに「自由競争の阻害だ」と米国企業がISDs条項を使い提訴する可能性はある（囲み記事）。そうなると、国民の生活を守るためではなく、企業が儲けるための薬価に変更される。TPPをにらんで、混合診療（注1）ができる国家戦略特区もできた。アリの一穴で、次第にこの穴

は大きくなる。混合診療の導入で地域の医療格差は増大する。

薬価高騰、混合診療、ISDS がそろえば、今の医療制度が温存されることはなく、形式的には国民皆保険制度が残ったとしても形骸化が予想される。米国のオバマケア（注2）を見ても、誰もが安心できる医療体制ではなく、保険会社のための制度になっている。

TPPは、私たちが長い時間をかけて築き上げてきた医療制度を崩壊させる方向に作用する。

狙われる農業と農地

農村関係でもTPPを睨み、さまざまな仕組みが変えられている。

ここに来て急速に進むのが、企業の農業参入を容易にする制度改革だ。一般企業の農地所有が解禁された農業特区を手始めに、企業の農地所有ができる制度変更は全国展開が進む可能性が大きい。

企業が安易に農業分野に入るこ

とを止めていた、農地の番人と言われた農業委員会も、選任方法が選挙から首長の選任へと変更されて、その力を削がれた。

大きな資本力をもった者が地域の農業を占有できる制度変更への地ならしはほぼ出来上がっている。これまでの耕作者主義では大きな農場といっても限界があったが、所有権主義になればその所有面積は際限なく大きくなる。

大資本は農地の買いあさりとともに、農場への資本参加という形でも地域農業を占有する。国が進める「強い農業」なる言葉に乗せられ、設備投資をしていた農場は、終点のない規模拡大レースを展開し巨大化する。そのたびに、さらなる資本を必要とする。

たとえば、大手スーパーやコンビニなどが参入すれば、農場の買い占めが始まる。結果、農場主は、コンビニオーナーのような雇われ農場主になっていく。集落の人が地域農業を守るためにつくった集

落営農組織も、経営のしくじりが巨大資本への買い占めの橋渡しとなり、下手すると村ごと巨大資本に吸収され、コンビニ村なるものまでできる可能性がある。

また、最初に資本参加したのが日本企業でも、いつの間にか外国企業による買収はよくある。つまり、「村の農業を丸ごと海外資本が吸収」はいつでも起こりうることだ。さらなる農地法の改正が重なり、外国企業によって自由に農場が売り買いされる時代が目の前まで来ていると言える。

農の対極にあるTPP

すでに明らかになった関税撤廃だけでも日本農業は丸裸にされた。さらに、TPPの詳細は明らかにされていない。おそらく、今の予想よりも農業に厳しい条件が次々と出てくるのではないだろうか。

「農」は今だけではなく、次の世代、孫の世代に必要なことなら

ばど、さまざまなことをやる営みだ。しかし、今の資本の論理は、将来世代のことなど何も考えていないように振る舞う。

原発事故で私たちはそのことを痛いほど知らされたにもかかわらず、生活スタイルを変えることなく、TPPのような人の命を食い物にする制度で世界のシステムを變更しようとしている。

農のような自然のリズムは、TPPともっとも相性が悪い。私たちが何を大切に生きているのかがもっとも現れるのが農業分野だ。逆に言うと「農」を守ることこそが人間らしい生き方を守ることになる。TPPで農が守れるのか。間もなくその答えが出る。

◎注1...一つの治療で保険診療と自由診療とを行う行為で、例外（先進医療等）を除き原則禁止。現状では混在するとすべてが自由診療扱いされ、患者の医療費は10割負担となる。だが混合診療では保険診療分は3割負担で済むため解禁を求める声もあるが、多くの医療団体は解禁には反対。先進医療などは「いずれ保険適用」との前提での混合診療適用だが、初めから混合診療を認めれば自由診療分の医療費は医療機関が自由に設定できるためその高騰を招くからだ。

◎注2...オバマ大統領が導入した国民皆保険制度。しかし、実質は民間保険会社に操られ、患者の医療へのアクセスは狭められ、医療費も高騰するなどの弊害を招いている。



自由貿易は誰を豊かにしたか
 ↳メキシコから学ぶ旅↳

アフガニスタン事業担当 加藤 真希

TPPのモデルとも言われる北米自由貿易協定(NAFTA)。1994年に批准したメキシコの国民生活は豊かになったのだろうか。自由貿易推進側が強調する、GDPや輸出の増加といったマクロ経済の指標だけでは捉えきれない人々の生活の変化を探るため、JVCは昨年、日本の農家やジャーナリストとともにメキシコの労働組合、農民、大学、女性市民団体、先住民の村などを訪ねた。

「私たちは
 政府に騙された」

94年にNAFTAに批准したメキシコは現在、TPP交渉にも参加している。

私たちは、14年11月と15年6月、NAFTA批准から20年を経たメキシコの今を確認するため、各地で取材を行った。

今回印象的だったのは、TPPに反対する労働組合関係者に「NAFTAの時はなぜ今のような反対

運動をしなかったのか」と尋ねた時だった。

「私たちは政府に騙された」

当初、政府は「NAFTAで雇用量が増え投資が進む」などの経済効果ばかりを強調し、十分な情報公開や議論がなされぬまま、多くの国民がそれを期待したという。しかしその後、外国企業誘致のため国内でも自由化政策がどんどん進む一方、自主的活動の抑え込みや賃上げ抑制など労働組合の活動も極端に制限されていた。

話をしてくれた労組の一人は、「脅迫を受けているため、インタビューでも名前は伏せて欲しい」と訴えた。

経済大国になっても
 増加する貧困

もちろん、取材で見た一面だけで自由貿易を批判できない。実際、NAFTAを機に、米国からの輸入に押される主食のトウモロコシは割に合わないため、輸出入の花の栽培に切り替えたことで所得を増やした農家にも出会った。そのような農家は増えているという。

一方で、あるトウモロコシ農家はこう語った。

「トウモロコシは価格が下がり続けて赤字だよ。だけど土地を手放すこともできない。自家消費のために栽培している」

一面に広がる美しいトウモロコシ畑で朝早くから作業をする農家の方の表情にはなんとも言えない憂いが伺えた。

メキシコは、ラテンアメリカ地域でブラジルに並ぶ経済大国である反面、国民の半数近くが貧困状態にあると言われ、マフィアによる凶悪犯罪も近年増加している。

自由貿易協定は、国民に豊かさを約束するものではなかったのか。

新自由主義的な改革のもとで拡がり続ける格差や社会不安を前に、それを疑問視せざるを得ない。メキシコの経験は、日本の将来を考える材料を提供してくれるはずだ。

なお、この取材をまとめたドキュメンタリー映画『自由貿易に抗う人々』が制作された。ぜひご覧いただきたい。

DVD 紹介

自由貿易に抗う人々
 —NAFTAから20年—

メキシコにおけるNAFTAの実態に迫ることで自由貿易の問題点を追求するドキュメンタリー映画が制作された。監督は今回の取材にも同行されたジャーナリストの上垣喜寛氏。2015年12月完成。

問い合わせ先 上垣氏メールアドレス

uegaki@smn.co.jp

読者のみなさんからの質問募集中!! 会員担当:宮西まで
お寄せください。

Q JVCが集めているモノの支援は、
どのように役立つのですか？

A 各ボランティアチームが収集・整理・換金
して、JVCに寄付してくれています。
また、断捨離ブームにピッタリ
の方法も始まりました。

日本全国どこからでも参加できるJVCのボラン
ティアといえば、「集めて送るボランティア」。使用済み
プリペイドカード、古切手、書き損じハガキ、不要にな
った本や貴金属。JVCがこうしたモノを収集し始めた
のは、いまから20年以上前に遡ります。いずれもボラ
ンティアさんの発案によるもので、収集から整理、寄
付までをボランティアチームが担ってきました。

郵送費の大きな味方——書き損じハガキ

未使用の官製ハガキや年賀ハガキは、郵便局で一定の
手数料（1枚5円）を差し引いた金額分の商品（切手な
ど）と交換できることをご存知でしょうか。しかし家に
残っている数枚の書き損じハガキのために郵便局へ行く
のは手間になる。ここに目をつけたのがラオスチーム。
会社や団体からも書き損じハガキを集めて、郵便局で交
換したものをラオス事業への支援として物品寄付（切手）
してもらっています。昨年度だけでも支援額は約100
万円にのびります。JVCでは、交換した切手を、会員
や支援者のみなさんへのお礼状や領収証の送付などに活
用しています。これが、JVCにとって郵送費の大きな
助けとなるわけです。

知られざる奥深い趣味の世界 ——プリペイドカード、古切手

かつて「趣味の王様」とも呼ばれた切手収集の切手
と同じく、テレホンカードも多様なデザインが可能な
のが魅力。限定品や非売品などの希少価値を求める収
集家の方々や、日本人にとっては見慣れた風景写真で

JVCで集めているモノ

ご自宅や会社で捨てよう!と思っていたものが、思わぬ役に立つこと
があります。ぜひまとめてお送りください。

1 使用済みプリペイドカード[※]、使用済み切手
[※]プリペイドカードは、テレホンカード、オレンジカード、
イオカード、バスネットのみ

商品券、書き損じハガキ、インクカートリッジ[※]
[※]インクカートリッジは、CANON、EPSON純正品のみ

JVCへ送ってください

〒110-8605 東京都台東区上野5-3-4
クリエイティブOne秋葉原ビル6階

2 壊れた貴金属や骨董品、
使わないブランド品などは

おたからや 目黒山手通り店

詳しくは下記のJVCのウェブサイトをご覧ください。

<http://ngo-jvc.info/1M2UDqA>

あっても、単純に「美しいので集めたい」と考える海
外の趣味人など、そのニーズは私たちの想像を超えて
いるようです。

この収集を始めたのはカンボジアチーム。当初は地
道に広報していましたが、ラジオ番組の呼びかけを通
して集められたテレホンカードが大量に送られてきて
以降、話題が話題を呼んで、数多く集まるようになり
ました。収集の裏では、カードを一枚ずつ検品し、枚
数を揃えて業者さんに買い取ってもらう地道な作業が
伴います。以前に比べて下火にはなりましたが、今で
も年間18万枚が集まり、8万円の寄付につながって
います（昨年度実績）。

古切手も同様に集まったものを整理して、重さで計
って買い取ってもらいます（今は1,300円/kgほど）。
使わなくなった未使用の切手も歓迎です。

お宝エイド——家に眠る意外なお宝？

昨年からはまった古物商さんとのコラボは、昨今の
断捨離ブームにうってつけの寄付方法。使わなくな
ったアクセサリ、価値がわからない古銭、手放せな
かったカメラなど…査定してもらった査定額に古物商
さんが10%上乗せした額が、JVCへの寄付になります。
モノを梱包し、ゆうパックの着払いで古物商さん宛に
送るだけでOKです。品名に「JVC宛お宝エイド」と
明記するのがポイントです。半年（2015年4～11月）
で、54人の方にご協力をいただき、約83万円のご支
援につながりました。

（広報グループ 寺西 澄子）



JVC国際協力コンサート2015 東京公演。155名の歌声ボランティアが「クリスマス・オラトリオ」と「マニフィカト」を歌い上げた。

[報告] JVC国際協力コンサートができるまで ■■■■■■

「合唱の力」を 束ねてつくる舞台

JVCにはスタッフとインターンが総出で取り組むイベントが毎年2つある。会員総会と年末に開催されるJVC国際協力コンサートだ。コンサートの実現に要する時間は1年。そもそもなぜJVCがコンサートを行うのか。なぜ27年も続いているのか。その事務局を10年以上担っている担当スタッフが舞台裏を披露する。



コンサート事務局
石川 朋子

りて心より御礼申し上げます。
さて、終演したとはいえ、すでに16年のJVC合唱団員の募集が始まり、ホールは17年まで仮予約をしています。すでに次回への準備は始まっているのです。

そもそも、なぜNGOがクラシックコンサートを行うに至ったのか。その始まりは1989年です。JVCのソマリア活動地を訪問し、日本人の活動に感銘を受けたアイネス・バスカビル理事が「活動を支えるお金をつくり「JVCやボランティアのことを知る機会とする」ために「国際協力コンサート」と発案したのです。

バスカビル理事は、以後25年間、ボランティア組織「JVCコンサート実行委員会」の委員長として本公演をけん引してきました。

JVCコンサートが できるまで

コンサート制作の始まりは、一言でいうと「見切り発車」です。

NGOがなぜ クラシックコンサート？

「JVC国際協力コンサート2015」が無事終演しました。12月6日の大阪公演には612名、12月1日の東京公演は1342名の方にご来場いただきました。

終演後には、「いつも素晴らしい

演奏です。世界が不安定な現在、JVCの活動を応援しています」などの声が寄せられました。

約40社の企業・団体、大阪94名、東京155名の合唱団員、指揮者キャスリーン・アランはじめ、ソリスト、管弦楽の皆さま、ボランティア、ご来場者の皆様、ご協力いただきました皆様にこの場を借



JVC合唱団の夏合宿。2泊3日で練習に集中することで、レベルが飛躍的に向上する。

企業からの支援も音楽家との契約も何もない状態で、コンサート開催を決定してしまうのだから。

事務局の1年は、JVC合唱団員募集から始まります。公募型合唱団で1年限定です。半数以上は継続してくださる方で、「合唱初めてですけど」と参加する方もいます。合唱団は経験の有無は問いません。誰でも入れます。

4月、JVC合唱団の練習開始と



たくさんの協賛企業から景品を多数提供いただき、今年度、初めての福引抽選会を試みた。(東京公演)。用意した福引抽選券は完売。

同時に企業への支援願いが始まります。継続企業を中心に新規で100社以上の電話かけをします。電話や資料送付だけで終わるのがほとんどですが、なんとか訪問へたどりつきたいと試行錯誤しています。

96年には約90社ほどあった企業支援が今は40社ほどです。それでも、製作費を1円でも増やすことがコンサート開催には必須です。今年もご支援の継続や、新規参加してもらえよう、コンサートの力、必要性を伝えていきます。

毎年9月1日が、コンサート事

業の収入の柱となるチケット発売の開始日です。販売の主力は合唱団員で、チケット販売の7〜8割を担っています。

また、「お金をかけない」PRが前提ですが、知らなければチケットも売れないということで、昨年は新聞へのチラシ折り込みという投資的試みも実施しました。

歌声ボランティア合唱団の力

公演の鍵となるのが「歌声ボランティア」である合唱団員です。大阪公演では、51年に設立された「コードリベット・コール」がコンサートの趣旨に賛同し、大阪公演第1回目の94年より歌っています。大阪公演のチケット販売の主力でもあり、公演の企画から当日運営まで協働で進めています。

東京公演で歌う「JVC合唱団」には合唱未経験者も参加できます。もっとも最高額1万円のチケットに見合う質の担保に難しさを唱え

る声もあります。今回の公演終了後、合唱団員から寄せられたメールには「自分には歌うことしかできないが、JVCの活動のために歌い続けよう！」と決心させられます」という前向きなコメントもあれば、「指揮者の練習スピードに合唱団がついていけず、要求に答えられない点が残念。本番ではソリストとオーケストラのおかげでなんとかなりましたが、それぞれがきちんと役割を果たさないと実現できないことを改めて認識すべきです」という厳しい意見もありました。

それでも、JVC合唱団は春からの週1回の練習、夏の2泊3日の合宿、そして、練習カレンダーにはない時間での練習を続けるからこそ、現場や来場者に届く歌声になっていると実感します。

16年の本番まで1年を切り、開催への準備が始まりました。今年も、JVC合唱団やコンサートボランティア(10月以降)を募集します。ご参加お待ちしております。

を感じる機会も多いが、田舎にいと2ステップ、3ステップ階段を上がらないと世界にはつながらない。そんなところでも家の中には外国製品で溢れ、アクセスの悪い分、自動車の依存率も高く、ガソリン需要は都会以上かもしれない。グローバル経済に飲み込まれていることをもっとも自覚しづらいのが田舎暮らしでもある。

そんななかで自然農業に取り組む、可能な限り自給を目指す若者



近所の小学生を相手に週一度簡単な英会話を教えている。その中で時々、世界で起きていることなどを話している。写真は対人地雷全面禁止条約の発効記念日にみんなで「地雷禁止」のポスターを作った時のもの。

もいる。こうした人々ともつながり、子どもたちに世界を知ってもらうことが大事だ。『おちやのじかん』は時として世代や空間を超えた人々の接点にもなる。

中と外をつなげること

地域での役割としては、「町ぐるみの花見にしよう」と、7年前に始めた「穴山町さくら祭り」の企画が評価され、数年前から穴山町づくり推進協議会の副会長をしている。さくら祭りは町内外の人々が毎年楽しみにしてくれ、町内外のグループによる芸の披露や地区対抗の「日本昔ばなし仮装大会」が恒例企画として人気を博するなど大きな祭りに発展した。

3年前には、JVC気仙沼事業の応援を目的としたサンマ祭りの地域での開催を提案し、「穴山町サンマ祭り」を実施した。新鮮な海産物をウリにしたこの企画は山あいの住民に大好評で、「ぜび町の主催

企画として継続したい」と、2回目からは区長会長を代表とした「穴山町サンマ祭り実行委員会」が立ち上がった。以降町民が中心となり、地元の大学生や高校生もボランティアとして巻き込んだ老若コラボ企画は、穴山の秋の大イベントとして定着しつつある。

言い出しっぺが推進役となるスタイルはNGOも地域も同じだ。僕自身がJVCで経験したすべてのことがいろいろな場面で役に

立っている。言い出しっぺになるには意識と覚悟が必要だ。でも、それを苦と感じさせない楽しさ、充実感があれば簡単なことでもある。

今も多くのJVCのOB、OGがいろいろな地域で暮らしと地域を見つめながら生きている。こうした人の存在がJVCの生み出す二次的なソーシャルインパクトなのかもしれない。

「こんな場所で!？」

初めてのお客さまに必ず言われるくらい、小さな集落の奥のそのまた奥にあるカフェ『おちやのじかん』。それだけに、南アルプスを見渡せる静かな里山のこの店は、お客さまの数は少ないものの、皆さんゆっくり過ごし、パワ-をチャージして帰っていかれます。



この素敵な場所を多くの方に楽しんでいただきたく、自宅庭に小さなカフェを開店して11年。地元野菜中心のランチと、国産小麦、天然酵母パン、ケーキ、すべて手作りで安心して召し上がっていただける食べ物と、マスターがコツコツ作り上げた庭、そして今では穴山の人たちとJVCの活動をつなぐ拠点ともなっています。

その出発点もJVC。お店を始める前、8年間も自宅のキッチンで週1回パンを焼き、JVCのスタッフの方々に買っていただいていた。『おちやのじかん』の味はJVCに育てられてきたのです。開店後も、スタッフやインターンの方々が来てくださったり、イベントでパンやケーキを売っていただき支えられています。

僅かながら売り上げの一部を募金させていただいたり、JVCを卒業した清水が中心となって地元でイベントを開いたり…お客さまにも、地域の方にもJVCが支援する人たちにも意味のある場となることを目標に楽しく営業しています。自然に囲まれたこの小さなカフェにぜひ一度遊びにいらしてください。

by 店主(清水由美)

レ・ロマネスクよりメッセージ

カンボジアには初めて訪れました。小学校では全校生徒と先生がお出迎えしてくれて、しかもみんな「TiQNoKo」の歌詞を完璧に覚えてくれていて、一緒に歌って踊って笑って、ありきたりな言葉ですが、感動で胸が熱くなりました。

歌詞の中にある「ネコもネズミもチキウノコ」という歌詞がとくに面白いようで、子どもたちはそこを何度もくり返して大爆笑でした。クメール語で制作した甲斐がありました。

ほんの数十年前には無惨な殺戮が行われた国で、こんなに子どもたちは笑顔にあふれ、無限の可能性と希望を持って強く生きているという事実にジーンとしました。このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。CDとプロモーションビデオの完成をどうぞお楽しみに!



きないのかな?」。このプロジェクトは、このシンプルなメッセージを世界に発信するプロジェクトです。発信の方法は、音楽。私たちはこのメッセージを音楽にのせてみることにしました。そして出来上がったのが、レ・ロマネスクによる書き下ろしの楽曲「TiQNoKo」です。この楽曲には、「この国の子、なんて関係ない。あなたも私も、大人も子ども、みんな地球の子、だからたったひとつの地球で、みんな仲良く平和に生きよう」という想いが込められています。この楽曲の収益はレ・ロマネスクの強い平和への想いのもと、全額JVCの活動に寄付されることが決まりました。この曲を日本語/クメール語で制作し、JVCが30年以上活動を続けるカンボジアから世界に発信するために、今回プロモーションビデオをカンボジアで撮影しました。2人は「カン

この楽曲の収益はJVCの活動に全額寄付されます。

レ・ロマネスク「TiQNoKo」販売情報

(iTunesなどでも販売します。)

クメール語バージョンが2016年4月上旬発売決定!

今回カンボジアで撮影してきたプロモーションビデオも同時公開予定です。

レ・ロマネスク プロフィール

愛と平和とトレビアーンをお届けする二人組。TOBI(トビ)とMIYA(ミーヤ)によりフランスのパリで結成。2009年フランスTV番組「信じられない才能」出演動画がYouTube再生回数フランス1位を記録。一躍「フランスで最も有名な日本人」となる。2011年フジロック出演を機に日本へ逆輸入。NHK Eテレ「お伝と伝じろう」のメインキャスト。2014年10月に日本語初のMAXIシングル「祝っていた/蚊〜〜/津の女」を発表。2015年6月には、扶桑社から公式ブックが発売された。

TiQNoKoプロジェクトの
詳細紹介ページ



<https://motion-gallery.net/projects/t-q-no-ko>

ウェブサイト

<http://www.rmnsq.com/>

Facebook

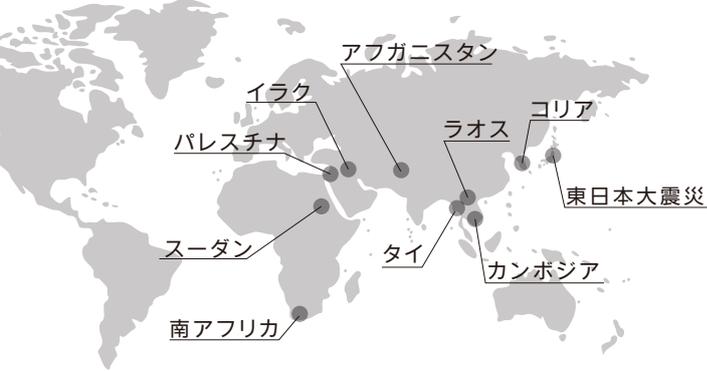
<https://www.facebook.com/0rmns9/>

Twitter

[TOBIさん] <https://twitter.com/rmnsq> [MIYAさん] <https://twitter.com/4miya4>

ボジアにはカンボジアの言葉で届けたい」と、クメール語を猛特訓。CDはオールクメール語で、今年4月頃に発売される予定です。今までは違ったアプローチで平和への想いを発信しようと試みているこの「TiQNoKo」

「ロジエクト」。今まで「JVCの」とを知らなかった方にも、JVCを知っていただけたら嬉しいです。文字通り「TRIAL&ERROR (試行錯誤)」しながらの挑戦にはなりますが、応援どうぞよろしくお願ひいたします!



JVCは現在、10の国・地域で活動しています。

プロジェクト一覧

9月後半～12月前半

気仙沼

ししおり 鹿折地区での 復興支援

10月中旬、廃校施設利用と地域づくりの事例を視察するため、浦島地区振興会メンバーと富山県および石川県を訪問した。視察では、カフェや食堂、宿泊所として学校施設を活用している事例や農家民宿の取り組みなどを学ぶとともに、現地住民との間で廃校施設の活用に関する意見交換を行った。後日行われた視察報告会では、「一歩踏み出して実践することが重要」との意見が住民から出された。一方、11月3日に浦島地区振興会と協働して開催した「懐かしの写真展」は、地域住民の好評を博した。

仮設住宅入居者の心身の健康維持を

目的とした「いきいき交流会」を9回開催し、合計40名の参加を得た。交流会では、個別の健康相談に加えて、介護予防体操や健康に関する講話を行った。

また、災害公営住宅のコミュニティ形成を図る「鹿折あつまっぺ!『趣味のじかん』(毎月開催)には延べ70名の住民が参加した。住民は落語の観賞やニュースポーツを楽しみつつ交流を深めた。

防災集団移転事業に関して、引き続きアドバイザー派遣を実施している。



共同建設方式によって完成した住宅前での集合写真

先行して団地が完成した小々汐、梶ヶ浦地区では、共同建設方式による住宅3軒が無事に竣工した。住民からは「震災前比べると小さい家だけど、ようやく仮設住宅を出て落ち着くことができた」との喜びの声が寄せられた。(岩田)

スーダン

紛争による避難民・ 難民への支援 (南コルドファン州)



菜園づくりを行う女性たちの話を聞く今井(中央)

紛争が続く南コルドファン州の州都カドグリ周辺、及び国境を超えた南スーダン側の難民キャンプで、戦闘を逃れた避難民・難民に対する支援を実施している。

8月に完成したカドグリ郊外の避難民再定住用の住居100戸は、すでに8割以上の入居が完了している。10月には首都に駐在する今井が現地に出張し、入居者の生活の様子を視察するとともに、カドグリ周辺での菜園づくり支援や井戸の維持運営支援の現場を訪問した。今後の事業について州政府など関係者との協議も行っている。

難民キャンプでは、難民自身が運営する幼稚園を支援している。新任のボランティア教員への研修を10月に実施したほか、学用品や飲料水タンクなど幼稚園の備品も提供した。12月後半にも追加の学用品支援を行う予定である。(今井)

コリア

絵画交流『南北コリアと日本のともだち展』/大学生交流



写真キャプション:延辺朝鮮族自治州の州都・延吉市(中国)おこなわれたワークショップ

◎延吉ワークショップ:延吉市少年児童図書館にて、10月中旬に等身大の自画像を描くワークショップを開催。本年の共同制作である子どもたちの等身大自画像が4作品完成した。

◎国内展:11月より島根、大阪、豊中、広島、埼玉などで順次開催している。大阪展では、本年の共同制作の展示のほか、多様なギャラリーイベントが行われた。

◎大学生交流:8月に平壤を訪問した日本人大学生による報告会を、11月と12月の2回にわたって行なった。

◎ネットワーク:JVCほか3団体が構成するKOREAこどもキャンペーンとして、7月に「戦後70年に寄せる市民からの声明」を発表。9月11日には基調講演に孫崎享さんをお招きし「東北アジアの平和とNGO・市民交流の可能性」を開催した。(寺西)

パレスチナ

学校・地域保健事業(東エルサレム)／栄養失調予防事業／アドボカシー



子どもの栄養状態検査の様子

◎栄養失調予防事業：8月から3期目をむかえている。新規に登録された5歳以下の子ども664人と、昨年からのフォローアップされている子ども343人の栄養検査を終えた。貧血児の割合は昨年分と新規登録分を合わせて36%だが、新規登録の子どもについては47%と高めの数値となっている。また、682人の母親と女性へのカウンセリングを行った。ボランティア30人は継続的に事業に参加している。

◎学校・地域保健事業：10月中旬に、2012年から実施してきた3カ年の事業を終了した。3年間で延べ5万人の学校生徒、幼稚園児、地域住民に対して健康診断、健康教育、救急救命法トレーニングなどを提供し、60人超の教師、約180人の学校保健委員会の生徒、約150人の救急隊ボランティアに対してトレーニングや専門的アドバイスの提供、活動に必要な物品提供を行った。現在、事業の事後評価作業を実施中。

◎アドボカシー：9月末にパレスチナを訪問した公明党の岡本三成議員と谷合正明議員との懇親会の場で、安保法制は紛争地で活動するNGOスタッフや受益者を危険に晒すものであると伝え、抗議の意思表示として懇親会を中座した。また、フェイスブックへの定期投稿や、イスラエルNGOとの協力の可能性を検討するための訪問も行っている。(今野・金子)

タイ

農村派遣研修／日・タイ経験交流／医療支援(タイ南部)



バンコクのセミナーで登壇する天明氏(写真中央)

◎日・タイ経験交流：原発建設が検討されるタイで、福島で放射能汚染からの再生に取り組む実践者をタイに派遣し2016年2月にセミナーを行う。タイのNGOと協議し、日本から派遣する2名、および日程を確定させた。

◎タイでのTPPセミナーへの参加：オルタナティブ農業ネットワークが主催するTPPセミナーが12月18日、バンコクで開催された。JVCはこのセミナーに協力し、天明氏(JVC理事／TPPに反対する人々の運動)を派遣し、TPPが与える日本の農業への影響について発信した。(下田)

◎タイ南部での医療支援活動：ビルマ人移民労働者コミュニティの保健ボランティア育成研修を実施し、15名が受講した。また、エビ養殖場などの移民労働者コミュニティを巡回し、健康診断などを行った他、世界エイズデー(12月1日)には学生向けイベントも開催した。(平野)

南アフリカ

HIV陽性者支援(リンポポ州)



「一人以上の恋人がいるのはNG!」HIV/エイズについて討論

11月24～27日にかけ、子どもたちの交流キャンプを実施。普段通う村の子どもケアセンターの敷地内にテントを張り、初めて寝泊まりを共にした。午前中は、14歳以上の若者を対象にHIV予防啓発に関する講座を実施、午後には小学校校庭の清掃など地域奉仕活動を行なった。

当初3年間の予定で2012年9月に開始、継続してきた事業期間が11月末で終わるため、評価を実施した。事業に直接参加してきた住民に加え、村のリーダー、ソーシャルワーカーなど地域の関係者に聞き取りを行い、事業の成果と課題を検討した。8月の事業終了前評価および今回の評価結果を受け、事業期間を延長し、子どもの支援活動やHIV陽性者との取り組みなど一部の活動を継続していくことが決定している。(富田)

ラオス

農業・農村開発／土地森林保全事業(サワナケート県)



ラタンの苗がたくさん育っている

稲作支援は収穫の時期を迎えた。3村32名がSRIを実践したが、今年は近年にも増して酷いとされる天候不順により苗が枯れたり育ちすぎて弱った苗を植えざるをえなくなるなどして大打撃を受け、全体としては例年より減収となったが、SRI平均は慣行方法を上回った。これから実践者で振り返りの経験交流を行い、来年度に活かす。ラタン栽培は順調で、発芽率が高く昨年よりかなり多くの苗が育った。また生育状況も良好でポッドに鉢上げし、村共同の苗置き場に並べ交代で水やりを行っている。この苗は来年の雨季前に森への移植及び販売される。

森林活動では、2村で遅れ気味の参加型土地利用計画作成に進展があり、行政からの承認を待つばかりとなった。法律カレンダーの作成では、9月10月に会議に参加し、11月に掲載する内容とイラストが確定した。また、10月に外部の専門家を招いて村人の林産物使用などの調査を行った他、11月にメコン地域の少数民族女性の支援のあり方について学ぼうワークショップにスタッフが参加した。12月にはラオス行政と事業最終評価会議を行い、現時点での成果と課題を共有した上で、6カ月の事業延長を提案した。(平野)

アフガニスタン

地域保健医療事業／
教育支援(ナンガルハル県)／アドボカシー



「自分の作文が冊子になった！」

◎地域保健医療事業：JVCの診療所では、家族単位のカルテを作成して病歴を記録している。これを活用し、診療回数が極めて多い患者や同じ家庭から複数の患者が出ている場合などは、病気が家庭での衛生環境に起因していることが考えられるため、医療スタッフが訪問してアドバイスをを行っている。この家庭訪問を10月に実施した。数ヶ月後に改善が見られたかどうか確認する。地域保健の分野では、村の長老たちで構成される「保健委員会」活動においてこの間に新たに2つの村で保健委員会が立ち上がったので、役割分担やグループとしての目標設定を行う研修を実施した。

◎教育支援：学校での健康教育では、これまで続けてきた壁新聞(※生徒が健康や保健をテーマとして書いた作文の中から特に優秀なものを集め、ポスターのように編集して掲示板に貼る)を発展させ、学校で得た保健の知識を家庭に持ち帰って家族にも共有できるように、小冊子を編集・製本した。より関心を集められるよう、学校の写真や様々なイラストを取り入れた。(加藤)

カンボジア

生態系に配慮した
農業による生計改善
／環境教育／資料・情報センター



子どもたちに植林の仕方を指導するスタッフのテロアット(写真左から二人目)

◎生態系に配慮した農業による生計改善(CLEAN)：通常の農業リソースセンター(旧試験農場)での栽培・研修活動に加え、支援農家20名を対象に、食品加工に関する研修(加工食品の衛生的管理・干し肉、干し魚、ドライフルーツ、果実ジュースの作り方)を目的としたスタディツアーを催行した(バタンバン大学)。また、SVAカンボジアの依頼により、同会が支援するプノンベン郊外のスラム地区住人40名を対象に家庭菜園作り研修を実施した。

◎環境教育：教員およびPTAメンバーに対する環境基礎講座、児童に対する直接指導に加え、植林活動を実施した。6月下旬から約4000本(オンカーニュー・モリンガ・チャヤ・ベン・ニーム他5種)の苗木を栽培し始め、コミュニケーション職員の協力のもと植林する公道の選定を行い、地域住民の協力のもと植林を行った。

◎資料・情報センター(TRC)：通常の資料貸出業務の他、プノンベンの大学生を対象に研修を行った。スタッフの指導のもと、環境・農業をテーマとして、プノンベンでの講義と、活動地における実地研修を実施した。(皆嶋)

南相馬

仮設住宅でのサロン運営

仮設住宅住民が仮設を出た後に生活を始める「災害公営住宅」でのサロン開設の準備を新たに進めた。阪神・淡路大震災の事例を見ると、仮設住宅から公営住宅に移り住んだ後に孤独死が急増している。サロンはJVCが直接運営するのではなく、住民自身で継続的に運営し続けられる体制の構築を狙っている。開設にあたっては、「孤独死ゼロ作戦」で成果をあげた千葉県松戸市の常盤平団地を公営住宅住民と共に9月に訪れ、サロン運営のノウハウを学ぶなど協力を得た。1月にオープンの予定。また、仮設住宅4カ所でのサロン運営も継続。仮設から住民が離れていく時期でもあるため、住民に災害公営住宅への入り方、自宅再建の方法に関する情報提供を行った。(白川)

イラク

心のケア・プログラムを実施

キルクーク市のラパリン地区にある、JVCの現地パートナー団体INSAN(インサーン)の事務所屋上を利用して、避難民の子どもたちと受入れコミュニティの子どもたちを対象とした、心のケアのプログラムが実施された。現在、イラクでは、2014年6月以降の過激派組織イスラム国との戦闘などによって周辺情勢が急激に悪化、多数の避難民が発生してキルクーク市でも受け入れられる事態となっている。その中で、特に戦闘により両親や家族を奪われ、心に傷を負った子どもたちを対象として、専門家によって心のケア・プログラムを実施した。また、芸術、絵画、演劇のアクティビティを通じて平和や共存について考えるワークショップも同時に実施した。(池田)

調査研究・政策提言

外務省・JICAとの
政策協議／各種提言

◎NGO・外務省定期協議会2015年度第2回政策協議会(11月26日)：標記会議に谷山、白川が参加。

◎NGO—JICA協議会(2015年度第3回：12月9日)：標記会議に谷山、長谷部が参加。

◎TPPが2015年10月に大筋合意。これを受けて、「TPPの透明性」を求める要請書／署名を政府TPP対策本部に手交した。(本誌特集参照)。

◎プロサバナ事業関連：

【1】第13回、14回プロサバナ事業に関するNGO・外務省意見交換会(10月27日、12月8日)：標記会議に渡辺、高橋が参加。【2】10月にローマで開催された第42回世界食料安全保障会議および関連イベントに渡辺が参加。関連団体と情報交換した。(谷山)



モザンビーク東岸、インド洋に面するナカラ港。「ナカラ回廊開発計画」において、内陸地で生産される輸出品を国外に輸出するための拠点と位置づけられている。

経済成長ありきで 社会課題が解決するか

調査研究・政策提言担当 高橋 清貴

この連載ではこれまで、プロサバンナ事業をミクロな視点、すなわちその実施の現場において何が行われているかを中心に批判してきた。住民や農民にとって、それがどういう意味を持つかが援助の基本だからである。今回は、逆にマクロな視点からプロサバンナを鳥瞰して、その全体像から見えてくる問題点を指摘してみたい。

日本国益のための援助

これまでアジア一辺倒だった日本のODAも、TICAなどに見られるように今では「アフリカ開発」をODAの柱のひとつに位置付けている。外務省がモザンビーク国をどのように認識し、その中でJICAはプロサバンナを含めてどのような開発を目指しているのかを、彼らが発した政策文書や発言をもとに探ってみる。

ODAの政策文書のひとつに「個別援助方針」がある。そこでは、「同国は、…資源が豊富であり、…農業開発の余地も大きく、…人口の大多数が農業に従事しているが、その大部分は生産性の低い零細な生産活動にとどまり、…企業活動は未発達である」とされており、「回廊と周辺地域を結び道路・橋梁改修やナカラ港の整備・電力等のインフラ整備を支援するとともに、…（プロサバンナ事業）により、農業開発支援に積極

的に取り組み、包括的な回廊開発支援を行う」とある。

要するに、外務省は古典的な近代化の視点から同国を「途上国」と認識しており、生産性を高め、インフラ整備し、輸出振興して国の経済を大きくするためには企業活動の発達が不可欠、という考え方だ。プロサバンナもここに位置付けられている。そして、その包括的な青写真が「ナカラ回廊開発計画マスタープラン」である。筆者が委員をしている「開発協力適正会議」で同地域の電力配電網計画を検討した時、外務省幹部から次のような発言があった。

「日本企業のビジネス環境整備のためのインフラ整備という観点から、日本企業の関心が高い地域・分野を対象に、案件の形成を目的に戦略的マスタープランの策定を進めている。」（第19回2014年12月16日）

この会議は、国益論者の委員が多いこともあって、それに誘引されて外務省もJICAも本音を語ることが多い。他国に負けずに日本企業にいかにか受注させるか。ODAの評価も、そこを中心に論じられる。別の会合でも、外務省はインドにおける高速鉄道（新幹線）事業獲得競争で中国に勝ったことに熱弁をふるっていた。

「質の高い成長」の結果とは？

新ODA大綱の「質の高い成長」という言い方に表されているように、貧困削減や脆弱性といった課題からの脱却、持続可能性などは「成長」の結果であり、あたかも成長すればそれらが達成されると言わんばかりである。しかし、筆者は外務省が唱えるこのロジックそのものに

危うさを感じる。誤解しないでいただきたいのは、この場で開発経済学で議論するように成長と貧困のつながりの妥当性を論理的に論じたいわけではない。むしろ、そうした課題は経済学とは違う次元にある「価値」を問うものであるということだ。倫理性と言ってもいい。倫理性とは、特定の地域やコミュニティ、あるいは国家という社会の枠組みにおいて、政治や自然環境、経済などが複合的に関係したところから生まれてくる価値観である。経済は社会の一部であって、経済が社会をつくるのではない。

昨年、ミレニアム開発目標が達成年を迎え、持続可能な開発目標（SDGs）が新たに策定された。装いは変わったが、格差や脆弱性、環境破壊といった課題への対応を優先すべき価値としており、その下で経済をいかにコントロールするかに成否がかかっている。SDGsは、その価値の重要性を広く国際社会に浸透させるために「共通目標」としてつくられたのである。改めて外務省の政策文書を読んでも、このような発想はまったく見られない。JICAも同じである。日本のODAは、高い倫理観の下でつくられたものではないからだ。ただ、対象とする国の貧困や環境破壊は無視できない。これらの課題を経済と結びつける言葉が必要になり、導き出されたのが「質の高い成長」という言葉に他ならない。耳障りの良い言葉（タテマエ）で本意（ホンネ）を覆い隠すことを日本は得意とする。「理想では飯を食えない」と考える国民が多くなった昨今、「アフリカ開発」で資源確保や企業進出を進めようとしていることは確かである。プロサバンナが提起しているのは、このマクロで思想的レベルでの問題でもある。

新たな資金調達としての「クラウドファンディング」

会員・支援者担当 宮西 有紀

JVCに限らず、多くのNGOでは活動の資金源として、寄付や会費などの収入のほか、企業からの助成金や政府からの補助金などがあります。独自の収益事業を実施しているところでは、さらにその収益も活動への支援となります。JVCの場合は、カレンダーやコンサートチケットの収益がこれにあたります。そんな中、最近、新たな取り組みを始めています。それが「クラウドファンディング」です。

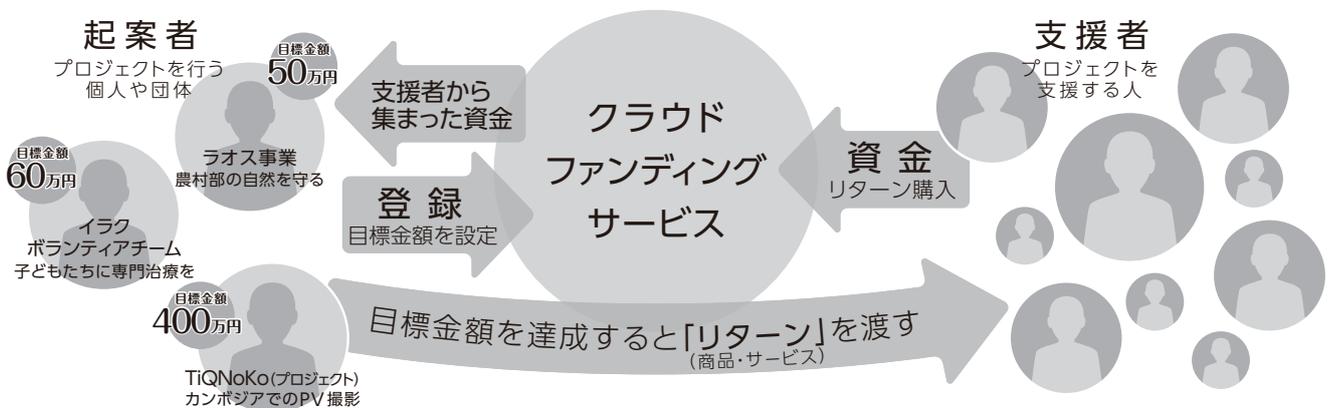
「クラウドファンディング」とは、群衆(crowd)と資金調達(funding)を組み合わせた造語で、「ある目的」のために、インターネットを通じて不特定多数の人から資金を集める仕組みを指します。多くの人々から少額の寄付を通して出資を集めるという手法が主で、アメリカでは2000年以降よりサービスが始めましたが、日本では、11年3月にオープンした「READYFOR(レディーフォー)」が最初のクラウドファンディングサービスです。

ことです。支援者にとってのメリットは、今後成長していく可能性のあるプロジェクトに、インターネットで、少額から気軽に投資ができる、という点や、支援額に応じたリターンを得られる、ことです。

寄付との大きな違いは、この「クラウドファンディング」が「購入型(報酬型)」という点です(注)。つまり、支援者は応援したいプロジェクトへ出資することで、そのリターン(報酬)として支援金額に応じた金銭以外の商品やサービスを受け取ることができます。そして、多くのクラウドファンディングは、プロジェクトが成功してから商品の制作やサービスの提供を行います。つまり、プロジェクトで設定した目標金額を達成しなかった場合は、集まった資金も返金される、というわけです。これは、いわゆる先行販売(事前購入)とも言えるため、リターンに魅力を感じてプロジェクトに出資する支援者も多く、リターンの内容がプロジェクトの成功を左右するということも過言ではありません。

クラウドファンディングには、プロジェクト起案者、プロジェクト支援者の双方にとってメリットがあります。起案者にとっては、やはり、資金を集めることができる、という

クラウドファンディング市場は、まだまだこれから伸びていくと思われ、JVCも新たな資金獲得・支援者層の拡大のため、こうした仕組みを上手に取り組んでいきたいと思っています。



JVCがこれまでに出演したクラウドファンディングサービス

- READYFOR <https://readyfor.jp/>
- MotionGallery <https://motion-gallery.net/>
- CHANGE MAKER! <https://greenfunding.jp/changemaker>

リターンの例(一部)

JVC国際協力カレンダー(卓上)、アラビア語でメッセージを入れたサンクスレター、イラクの香辛料3種セット(レシピ付)、PV完成試写会無料ご招待、開催されるパネルトークへご招待、ちょっとレアなピョンヤン土産、TiQNoKoオリジナルポストカード・缶バッジ・うちわ・タオル、など

◎注…クラウドファンディングは、支援者に対するリターンによって、金銭的リターンのない「寄付型」、金銭リターンが伴う「投資型」、プロジェクトが提供する何らかの権利や物品を購入することで支援を行う「購入型」、これら3つの種類に分類されるが、日本においては資金決済に関する法律等によって個人間の送金や投資が制限されていることから、購入型のクラウドファンディングのサービスが最も多く認知度も高い。

イベントあらかると 10月～12月

イベント・ピックアップ!

11/29(日) 東京・港区

竹沢うるま×安田菜津紀「いのちいっぱい」

JVC国際協力カレンダー2016発売記念トークイベント

カレンダー事務局 橋本 貴彦



お二人の作品を鑑賞しながらあっという間に時間が過ぎた。

新旧の JVC 国際協力カレンダーの
写真の提供者である竹沢うるまさん
と安田菜津紀さんに登壇いただいた
このイベント。冒頭では、お二人の
肩書の違いについての話があった。
「究極の自己満足として撮影したもの
を、見た人が自分の価値観で意味付
けてくれればいい」とする「写真家」
の竹沢さんと、伝えるべき事や自分
の思いを世界に発信する手段として
写真を用いる報道人＝「フォトジャー
ナリスト」である安田さん、という
違いだ。

安田さんが小学校で、言葉の理解
度に差がある 1 年生から 6 年生に講
演をされた時に、言葉では伝わり難
いメッセージも写真を見せると一瞬
にして理解してくれたと話してくだ
さった時、竹沢さんご自身がニュー
ヨークで開いた個展のエピソードを

交えながら、写真は、そのものが持
つ意味やメッセージを世代の違いや
地理的な距離を越えて一瞬で伝える
ことができる、いわば「ユニバーサ
ルランゲージ」だと話され、安田さ
んも大いに共感されていた。

参加者からの「今まで常識が覆っ
たと感じた瞬間は？」という質問に
対しては、安田さんは 2009 年に訪
れたシリアの首都ダマスカスで見た
夜景をあげられた。殺伐とした日中
とは異なり、モスクの尖塔に平和の
象徴である緑のランプが数多く灯る
その美しい景色を見た時に、「アラブ
は殺伐としていて怖いところ」と思
い込んでしまうことの怖さと、細や
かな想像力と現場の空気を吸う事の
重要性を改めて感じたという。竹沢
さんは、そもそも絶対的な常識・非
常識というものはなく、あくまで相

対的なものであると言われた。例え
ば、これまで「秘境に行きたい!」
と思ってどんなに奥地へ分け入って
も、そこには必ず人の生活があった。
そこに暮らす人にとってはそこが世
界の中心であり、逆に日本人である
自分の方が彼らにとっては非常識
だった。そんな経験から、どんなも
のでも受け入れるよというスタンス
ができていったようだ。

イベントを通して、写真という同
じ言葉を持つお二人にもうひとつ共
通するものを感じた。それは、「優し
さ」である。自己満足と言いつつも
も被写体に真摯に向き合う竹沢さん。
どんな方ともすぐに打ち解けて場を
穏やかな雰囲気になれる安田さん。
「ユニバーサルランゲージ」を操るお
二人の人となり再認識できたイベ
ントでもあった。

その他の主なイベント

10/2(金) 神奈川・横浜市

パレスチナで起きてきたことを知ろう

10/3(土) 東京・中野区

一緒に考えませんか! 『積極的平和主義』

10/3(土)～10/4(日) 東京・お台場【出展】

グローバルフェスタ JAPAN 2015

10/17(土) 滋賀・大津市

笠原純子が奏でるピアノと映像詩

海外で活躍されるピアニスト笠原純子氏による
チャリティコンサートが開催され、その収益の一
部をJVCのパレスチナでの活動に寄付いただき
ました。

10/24(土) 東京・JVC東京事務所

未公開映像でたどるイラク戦争の10年

映像ジャーナリストの綿井健陽氏をお招きして、
ここ10年のイラクの道のりをたどりました。

11/8(日) 東京・JVC東京事務所

私たちピョンヤンに行ってきました。Part1

昨年8月に大学生交流として朝鮮民主主義人民
共和国を訪れた大学生による帰国報告会です。

11/23(月) 埼玉・熊谷市

Ti-Q-No-Ko 秋祭り in 熊谷

TiQNoKoプロジェクト(本誌14ページ参照)へ
のクラウドファンディング支援者の方が主催して
くださった、レ・ロマネスクといっしょに歌って踊
れるチャリティイベントです。

11/26(木) 東京・豊島区

日本の農業から考える、世界の食料問題(1)

今年で8年目を迎えた他団体との共催「食べも
のの危機を考える」公開連続セミナーの本年
度1回目。日本の農業の課題や展望について考
えました。

12/3(木) 東京・豊島区

日本の農業から考える、世界の食料問題(2)

前項セミナーの2回目。

12/6(日) 東京・渋谷区

私たちピョンヤンに行ってきました。Part2

11/8開催イベントの2回目。

12/6(日) 大阪・大阪市

JVC国際協力コンサート2015

第22回大阪公演

いずみホールで開催。楽曲はヘンデル「メサイ
ア」でした。

12/7(月) 東京・参議院議員会館

「最後のフロンティア」アフリカにおける
小農の現在と日本

「アフリカ経済回廊開発」構想の下、日本も官民
連携で開発援助を進めています。モザンビーク
におけるその影響を知るため、現地調査報告や
現地の農民組織スタッフを招聘しての報告の機
会を設けました。

12/10(木) 東京・日本記者クラブ

食料問題をめぐる国際議論の潮流

12/12(土) 東京・渋谷区

JVC国際協力コンサート2015

第27回東京公演

昭和女子大学人見記念講堂で開催。楽曲はラ
ター「マニフィカト」、パッサ「クリスマス・オラトリ
オ」でした(本誌10ページに記事あり)。

12/19(土)～25(金) 埼玉・さいたま市

(さいたま市民活動サポートセンター)

2015 南北 코리아 と日本のともだち展
in さいたま



JVCなひと

小さな一歩が つながっていく

JVCボランティア 秋山クニコ



以前NGOで働いていましたが、しばらく遠ざかっていました。一昨

年秋に時間に余裕ができ、活動再開
と思いインターネット検索、ボラン
ティア募集中のJVCが目にとま
り、説明会に参加。早速、カレンダ
ー事務局のボランティアを始め、週
に1〜2回通うようになりました。

事務所で、現地スタッフの活動地
域の報告会などがある時は、ボラン
ティアでも自由に参加でき、生の情
報に触れることができます。ここに
居れば、もっと多くを知ることがで
きそうだと、カレンダー発送の作業
が終了しても定期的に事務所に通っ
ていました。そして、一年が過ぎた
昨年、カレンダー販売を手伝うアル
バイトに誘っていただきました。

JVCカレンダーを眺めている
と、以前の旅先で出会った風景を思
い出します。軒先の風に揺れる色彩
豊かな洗濯物。もの陰から恥ずかし
げに、でも好奇心の目で様子を伺う
子ども。カメラを持った旅行者に笑
顔で走り寄ることもたち。きらきら
輝くのちに出会い、元気をいっぱい
もらいました。もうつばかり、何

かできないかなあと思いましたが、
当時の私は、行動に移すことはありません
でした。

三十歳を目前に、仕事に追われる
生活を変えようと転職活動を開始。
一般企業を探していたのに、職種や
勤務条件で絞り込み残った数社の中
に「途上国の中小企業の発展を支援
する団体（NGO）」が現れたので

す。「NGO」という言葉が浸透して
いない頃、初めて聞く略称です。怪
しい、でも気になって仕方がない。
インターネットのない時代ですから
応募して確かめるのみです。それが
NGOとの出会いでした。途上国は
多くの問題を抱えていること、それ
に取り組む日本人が多く存在するこ
とを知り驚きました。そこで数年間
勤務後、団体の諸事情で一般企業へ
と転職しましたが、国際協力に関わ
つていようという思いは、静かに続
きました。そしていまはJVCに。

思い続けることが、小さな一歩に
つながり、小さな一歩を踏み出すこ
とで、新たな出会い、新しい景色が
見えてきます。JVCからはどんな
世界が広がるのでしょうか！

おすすめ本

『19歳の小学生 学校へ行けてよかった』

久郷ボンナレット、久郷真輝 著
メディアアイランド 2015年
2000円（税抜）
事務局次長 細野 純也



1975年にカンボジアでポル・
ポト派が実権を握る政権が樹立さ
れ、その後の4年間で150万〜2
00万人が同国人の手で殺されるか
行方不明になったとされている。い
わゆる「ポル・ポトの大虐殺」だ。
本書は三つの章に分かれている。

著者のボンナレットさんがポル・ポ
ト政権下の母国カンボジアを子ども
として体験した出来事をつづる一
章、続く二章は、政権が倒れた後に
日本に逃れてきてからを描く。最後
の三章では、来日後に日本人男性と
結婚して生まれた彼女の娘である真
輝さんが、子ども時代に書いた文章
を通して家族への想いが浮かびあが
る。なかでも印象的なのが、分量も
多くさかれている一章だ。

首都プノンペンに暮らしていた人
たちは、ある日突然理由もなく地方
に追い立てられる。著者の家族も同
様だ。たどり着いた土地では大人は
強制労働をさせられ、子どもも過酷
な農作業に駆り出される。家族と離
ればなれになり、食べ物ほんの少
ししか与えられず、病気になっても
休めない。周りの人たちは病気で死

ぬか、ある日突然「いなくなつて」
いく——こうした状況を、子ども時
代の著者の視点から描いていく。「こ
の作業はいつ終わるのだろうか」、「次
に父さんと会えるのはいつかな」……
そうした彼女のささやかな希望がこ
とごとく押しつぶされていくさま
に、文字通り目の前が暗くなる。

そうした子ども時代を過ごした人
間がいかに「再生」されていくのか、
そのために何が必要だったかが、続
く二章と三章で提示される。暗い深
海に潜っているような息苦しい一章
とは対照的な開放感と、母の生い立
ちと想いに向き合い寄り添う若い真
輝さんの真摯な言葉が印象的だ。

著者が日本に来る前に一時期滞在
した力オイダン難民キャンプは、当
時JVCがちょうど現地で活動を
始めた場所（80年〜）。「国際協力し
たい」という若者を昔も今も数多く
惹きつけるカンボジア。しかし、外
国からの支援が必要な状況がなぜそ
もそも生まれてしまったのかを知る
ために、今と昔をつなぐために適
した手に取りやすい本だ。

お知らせ

募集コーナー

週末は気仙沼。海の仕事と人に出逢う旅2016

養殖体験や見学を通じて気仙沼・四ヶ浜地域の暮らしを満喫します。普段は経験できない、牡蠣・わかめの養殖体験や水産加工工場の見学などワクワクする企画が盛りだくさん！気仙沼の人々とふれあう中で地域の魅力や現状を感じてください。皆様のご参加を心よりお待ちしております！！

日程：2016年2月27日(土)～28日(日)
※1泊2日、現地集合/現地解散(JR気仙沼駅)
代金：17,000円(税込)※現地交通費、
宿泊費(夕/朝食付)、昼食代を含む

※詳細は、同封のチラシをご覧ください。

JVC合唱団 4月6日練習開始

合唱をする—これもひとつの国際協力。今年は、誰かのために歌いませんか？「合唱を通じてボランティアに参加できることに誇りが持っている」合唱団員の言葉です。

演目：J.S.バッハ「マニフィカト」「クリスマス・オラトリオ」
本番：JVC国際協力コンサート2016
第28回東京公演 2016年12月4日(日)15時開演
練習期間：2016年4月6日以降、毎週水曜日18時半～21時
練習場所：日本ホーリネス教団 東京中央教会
(新宿区北新宿1-24-12)
練習費：一般3,000円(月額)、学生2,000円(月額)

お申込・お問合せ JVCコンサート事務局 石川
TEL:03-3836-4108、MAIL:concert@ngo-jvc.net

2016年度東京事務所インターン

1年間、週2日スタッフの仕事を手伝いながら、NGOの視点や問題意識を学ぶインターン制度。実際の仕事を通して、様々な機会や出会いが得られます。各分野で募集中です。

応募締切：2016年2月29日(月)
応募方法：JVCホームページよりご確認ください

お問合せ：石川・寺西 TEL:03-3834-2388
MAIL: tomoko@ngo-jvc.net

皆さまからの投稿をお待ちしています

ぜひ、JVCや会報誌に関するご意見・ご希望をお寄せください。また、「JVCなひと」への自薦寄稿も大歓迎！ JVCの会員になったきっかけや最近の関心事など、800字以内でお送りください。そして、「いまさら聞けないQ&A」でも質問を募集中です。会員になって長いけどそういえば聞いてみたいことがあった、まだ会員になったばかりだから教えてほしいことがある等々、なんでも結構です。皆様からの投稿をお待ちしております！

投稿先 会員担当 宮西まで
MAIL: miyanishi@ngo-jvc.net FAX: 03-3835-0519

募金集計

募金にご協力ありがとうございます

JVCの活動は、皆さまの募金によって支えられています。JVCへの募金は、税制優遇措置を受けることができます。

指定先	期間(9～11月)
無指定	10,303,706
タイ	14,500
カンボジア	633,547
ラオス	560,858
南アフリカ	1,130,653
アフガニスタン	829,932
イラク	921,490
スーダン	2,177,910
パレスチナ	2,162,315
南タイ	20,333
コリア	197,800
東日本大震災	1,518,887
みどり一本	138,000
東京管理	21,500
調査研究	1,500
コンサート	340,458
合計	20,973,389円

※上表に「夏/冬の募金」も含まれます。

人事

入職



木村 茂 ラオス事業担当(10月19日付)

タイでLinkというNGOを設立し、10年以上にわたって農村住民による地域の自然資源管理の実現を目指す活動を支援してきました。この経験を生かし、魅力あふれるラオスの人々の活動を応援したり、日本にラオスを紹介したいと思っています。

異動

平野 将人

ラオス事務所現地代表
(11月16日付:ラオス事業担当より)
※南タイ事業担当兼務

林 真理子

ラオス事務所現地調整員
(11月16日付:現地代表より、非常勤)

退職

皆嶋 円

カンボジア事務所現地調整員(12月31日付)

編集後記

コリアボランティアチームの一員として実施したクラウドファンディング。12月31日、無事に目標金額を達成しました。特に、30日を過ぎてからは多くの方に背中を押していただき、最終日には自分でも把握が追いつかないほど。改めて、たくさんの仲間を支えられていることを実感しました。そして、こうした地道な草の根活動が未来を少しずつ変えるのだ!と信じて、これからもサポートしていくことを誓うのであります。(宮)



中面で紹介しているJVCとレ・ロマネスクのコラボレーション企画「TiQNoKo」プロジェクト、プロモーションビデオ撮影時の一枚。小学校では全校生徒と先生がレ・ロマネスクをあたたかく迎えてくれました。事前に楽曲「TiQNoKo」を聞いてくれていた生徒たちは、本人たちを前に曲を大合唱！「現地の言葉で伝えたい」という強い想いのもと、オールクメール語で制作された「TiQNoKo」CDの発売は2016年4月！詳細は中面14ページをご覧ください。



特定非営利活動法人
日本国際ボランティアセンター

日本国際ボランティアセンター（Japan International Volunteer Center）は、1980年2月、タイのバンコクで誕生した市民による国際協力団体です。JVCの活動目的は、国際社会のなかで、社会的、精神的、物理的に困難な立場を強いられるアジアやアフリカ・中東の人びとに協力すると同時に、地球環境を守る新しい生き方と人間関係をつくり出そうということにあります。そのため私たちは、自らの意志でJVCに参加し、活動を継続してきました。JVCはボランティアという言葉で、「自発的意志をもって、責任ある行動をとる」という意味で団体名として使っています。

JVCでは会員を募集しています

会員数（1月1日現在）合計 1,066名（正会員564名 賛助会員502名）

会員は総会に出席し、JVCの方針などを決定するほか、情報・資料の入手、各種の活動・報告会・学習会等へ参加することができます。会員の方には年4回この会報誌と年次報告書をお届けします。入会のお申し込みや、会員の方の住所変更などは会員担当の宮西まで。

メールアドレス mijanishi@ngo-jvc.net

- 一般会員 10,000円
- 学生会員 5,000円
- 団体会員 30,000円

それぞれに正会員と賛助会員があります

JVCのオリエンテーション（説明会）にお越しください

JVCの活動内容をご紹介します。お気軽にご参加ください。

会場 JVC東京事務所 参加費 無料 予約 不要

第1月曜日 午後7:00~8:30
第2・第4土曜日 午後2:00~3:30

ウェブサイト <http://www.ngo-jvc.net/>

メールアドレス info@ngo-jvc.net

Facebook [NGOJVC](#)

twitter [@ngo_jvc](#)

